

第5学年 外国語科（プログラミング教育）学習指導案

1 単元名 Unit7 Where is your treasure? 宝物への道案内をしよう（Junior Sunshine5）

2 単元の目標

宝物の場所を伝えるために、場所や位置を表す表現を使って、道案内をすることができる。
また自分のことをよく知ってもらうために、自分の宝物について伝え合うことができる。

3 本時の活動（第5時）

（1）目標

場所や位置を表す表現を用いて、道案内をすることができる。

（2）プログラミングを取り入れた効果

設定された条件のもとで、宝物までの道順を考え、道案内することによって、論理的思考を育成するとともに、場所や位置について伝える表現を用いることができる。

（3）展開

時間	児童の活動	指導者の活動		指導上の留意点 ◎評価規準〈評価方法〉
		HRT	ALT	
1分	・挨拶をする。	・全体に挨拶をする。		
2分	・Let's Chant2をする。	・児童と一緒に歌い、楽しい雰囲気を作る。	・先導して歌い、児童をリードする。	・ジェスチャーをしながら歌うように促すことで、表現の示す方向が分かるようする。
4分	・Small Talkをする。	・既習の表現を使って、ALTとやりとりをする。	・既習の表現を使って、児童と一緒にHRTとやりとりをする。	・道案内をする場面を見せることで、本時のめあてをつかみやすくする。
道案内をして、宝箱の場所を伝えよう				
2分	・コマンドゲームをする。	・児童と一緒に発音しながら動き、児童をリードする。	・英語で道案内の指示をする。	・実際に体を動かすよう促すことで、道案内をする表現を想起することができるようにする。
20分	・グループになって道案内をして、宝箱の場所を伝え合う。	・個に応じた支援をする。		◎場所や位置を伝える表現を使って、道案内をしている。〈行動観察・振り返りカード〉
10分	・宝箱の中にある先生たちの宝物についての話を聞く。	・児童とやりとりをしながら、ALTの話を聞く。	・宝物についての話をする。	・自分の宝物についても深く考えることができるようにする。
5分	・本時の活動を振り返る。	・振り返りの観点を示し、感想を聞く。	・本時の活動についてよかったことを話す。	・児童の活動の良かった点を伝えることで、今後の活動への意欲が高まるようにする。
1分	・挨拶をする。	・全体に挨拶をする。		

4 本時の評価

「話すこと [やり取り] の知識・技能」

「十分満足できる」と判断される状況	相手の反応を見て、場所や位置を伝える表現を用いて道案内をしている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための手立て	ゲームやチャンツ、Small Talkで表現を想起させるとともに、児童のつまずきに応じて助言や支援を行う。

実践事例報告【第5学年 外国語科】

1 授業の様子



子どもたちは学校の様々な場所に宝箱を隠した。そして、前時に宝箱への道順を示すコマンドメモを作成した。「中学生の教室の前は通行できない」「職員室には入ることはできない」などの条件を設定した。グループの友達と相談したり、地図を使ったり実際に歩いたりしながら、設定された条件のもとで道順を考えた。



本時では、作成したコマンドメモをもとにして宝箱への道案内を行った。zoomを活用することで、離れた場所にいる相手とも、やり取りをすることができる。離れた場所にいるからこそ、自分の知っている英語表現を使って、なんとか相手を案内しようとする姿が見られた。また、相手の反応や動きを見ながらやり取りすることができるため、作成したコマンドメモの間違いに気付いたときには、その場でコマンドを修正し、相手を案内することができていた。



相手の道案内を聞いて宝箱を見付ける際には、“OK! Turn right.”, “One more time, please.” など、相手の言ったことを確認したり、もう1度尋ねたりしながら、英語でやり取りをする姿が見られた。ただ表現を使うだけでなく、相手がいることを意識したコミュニケーションができていたと感じた。

2 子どもの反応（※子どもたちの感想）

- ・「zoomでの道案内は大成功で、とてもうれしかったです。これからも使いたいです。」
- ・「OK?と確認しながら案内することができたので良かったです。」
- ・「どう表現したらよいか分からないときは、知っている英語から引き出して伝えました。」
- ・「道案内を上手にすることができて良かったです。外国の人が道に困っていたら英語で道案内を試みたいです。」

3 授業の成果と課題

子どもたちは、あらかじめ設定された条件の下で、試行錯誤しながら道順を考えていた。その姿から、プログラミング的思考を働かせることができていると感じた。また、zoomを活用して道案内をする場面では、相手の動きや反応を見て、その場でコマンドを修正したり互いに確認し合ったりしながら、やり取りすることができていた。

今回は、学校の中での道案内であったが、今後は、より実際のコミュニケーションに近い場面設定で、プログラミング的思考を取り入れながら、外国語科の目標を達成することができるようにしていきたい。